

古事記より

舟と琴

尾上菊之丞 原案構成
 今藤政太郎 作曲
 藤舎呂 船作調

この御世に、免寸河の西に、一つの高き樹ありき。その樹の影、旦日に当れば、淡道嶋に逮び、夕日に当れば、高安山を越えき。かれ(ゆえ)、この樹を切りて船を作れるに、いと捷く行く船にありき。時に、その船を号けて、枯野といふ。かれ(ゆえ)、この船もちて、旦夕に淡道嶋の寒泉を酌みて、大御水献りき。この船破壊れて塩に焼き、その焼け遺りし木を取りて琴に作りしに、その音七つの里に響みき。

枯野を 塩に焼き

しが余り 琴に作り

かき弾くや 由良の門の

門中の海石に

ふれ立つ なづの木のことや

